PENTAX®

ESPIO 838S
QUARTZ DATE

使用説明書

カメラの正しい操作のため、ご使用前に必ずこの使用説明書をご覧ください。

このたびは、ペンタックス ESPIO**838S**（エスピオ838S）デートをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。「エスピオ838S」は、38ミリ広角から80ミリまでのズームを備え、記念撮影などに便利なセルフタイマーや暗いときに自動的に発光するストロボなどいろいろな機能を搭載しているズームコンパクトカメラです。

・説明文中の ▭ 内の注意事項には、特に気を付けてお読みください。
・本文中の写真・イラストは、実際の製品と異なる場合があります。
・59、60ページに切り取って使える「クイックガイド」がありますので、ご利用ください。

「林檎の秘密」
すぐに役立つ写真の基礎知識

露出の仕組みや光の測り方、ピントの合わせ方など写真の基礎を豊富なイラストと作例でわかりやすく解説しています。お買い求めは、ペンタックスサービス窓口・ペンタックスファミリーまたは、最寄りのカメラ店で。

記号について

操作の方向	←
自動的に動きます	⇔
注目してください	◌
点灯します	☼
点滅します	⁘
正しい	○
間違い	×

この製品の安全性については十分注意を払っておりますが、2ページにある下記マークの内容については特に注意をしてお使いください。

⚠ 警告

このマークの内容を守らなかった場合、使用者が重大な傷害を受ける可能性があることを示すマークです。

⚠ 注意

このマークの内容を守らなかった場合、使用者が軽傷または中程度の傷害を受けたり、物的損害の可能性があることを示すマークです。

⃠ は、禁止事項を表わすマークです。

⚠ は、注意を促すためのマークです。

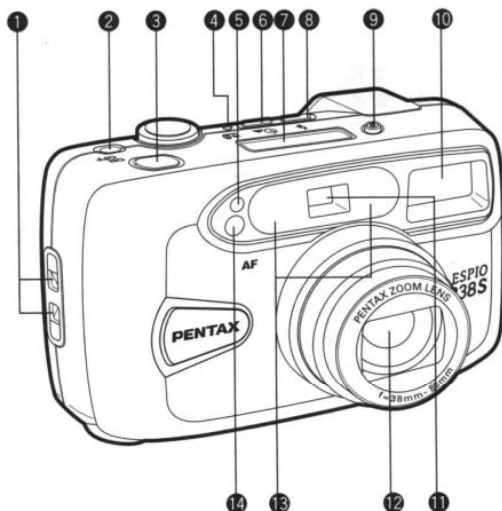
⚠ 警告

- ⦸ カメラを分解しないでください。カメラ内部には高電圧部があり、感電の危険があります。
- ⦸ 落下などにより、カメラ内部が露出したときは、絶対に露出部分に手をふれないでください。感電の危険があります。
- ⦸ ストラップが首に巻き付くと危険です。小さなお子様がストラップを首に掛けないようにご注意ください。

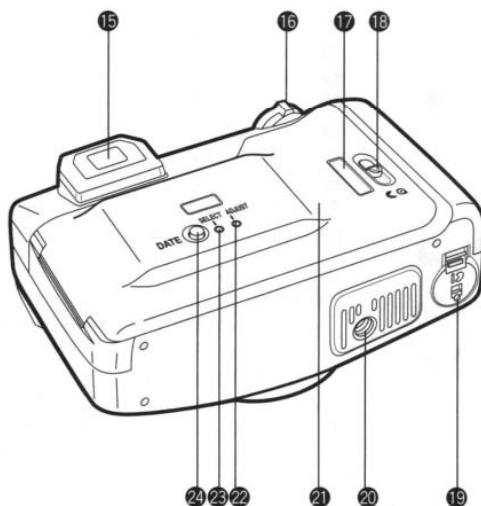
⚠ 注意

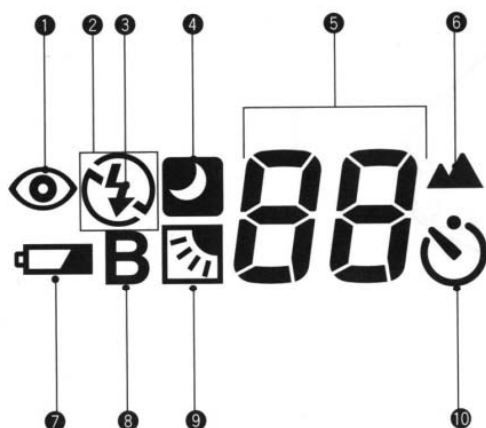
- ⦸ 電池をショートさせたり、火の中に入れないでください。また、分解や充電をしないでください。破裂・発火の恐れがあります。
- ⚠ 万一、カメラ内の電池が発熱・発煙を起こしたときは、速やかに電池を取り出してください。この場合、やけどに十分ご注意ください。

取り扱い上の注意

・汚れ落としに、シンナーやアルコール・ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。
・高温多湿の所は避けてください。特に車の中は高温になりますのでご注意ください。
・防虫剤や薬品を扱う所は避けてください。また、カビ防止のためケースから出して、風通しの良い所に保管してください。
・このカメラは防水カメラではありませんので、雨水などが直接かかる所では使用できません。
・強い震動・ショック・圧力などを加えないでください。オートバイ・車・船などの震動は、クッションなどを入れて保護してください。
・レンズ、ファインダー窓のホコリはブロワーで吹き飛ばし、きれいなレンズブラシで取り去ってください。
・業務用または過酷な条件での使用には、お勧めできません。
・高性能を保つため、1〜2 年毎に定期点検をしてください。長期間使用しなかったときや、大切な撮影の前には点検や試し撮りをしてください。
・カメラの使用温度範囲は－10℃〜50℃です。
・急激な温度変化を与えると、カメラの内外に水滴が生じます。カメラをバッグやビニール袋などに入れ、温度差を少なくしてから取り出してください。
・ゴミや泥・砂・ホコリ・水・有害ガス・塩分などがカメラの中に入らないようにご注意ください。故障の原因になります。雨や水滴などが付いたときは、良く拭いて乾かしてください。

各部の名称

❶ ストラップ通し［13ページ］
❷ 電源スイッチ［19ページ］
❸ シャッターボタン［20ページ］
❹ 途中巻き戻しボタン［32ページ］
❺ 受光窓
❻ セルフ／遠景ボタン［34ページ］
❼ 表示パネル［6ページ］
❽ ストロボ／バルブボタン［33ページ］
❾ 赤目軽減ボタン［34ページ］
❿ ストロボ発光部
⓫ ファインダー窓
⓬ レンズ
⓭ 測距窓
⓮ セルフタイマーランプ［41ページ］

各部の名称（背面）

⓯ ファインダー接眼窓
⓰ ズームレバー［24ページ］
⓱ フィルム情報窓
⓲ 裏ぶた開放レバー［14ページ］
⓳ 電池ぶた［51ページ］
⓴ 三脚ネジ穴［41ページ］
㉑ 裏ぶた［14ページ］
㉒ ADJUSTボタン［47ページ］
㉓ SELECTボタン［47ページ］
㉔ DATEボタン［47ページ］

表示パネル

各部の名称

❶ 赤目軽減撮影 ……………[44ページ]
❷ ストロボOFF [36、38、39ページ]
❸ ストロボON …[35、37、40ページ]
❹ 低速シャッター …………[36ページ]
❺ フィルム枚数 ……………[17ページ]
❻ 遠景撮影 …………………[43ページ]
❼ 電池消耗警告 ……………[50ページ]
❽ バルブ撮影 …………[39、40ページ]
❾ 逆光補正 …………………[38ページ]
❿ セルフタイマー撮影 ……[41ページ]

液晶表示［LCD］について

- **約60℃の高温では液晶表示が黒くなることがありますが、常温に戻れば正常になります。**
- **低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなることがあります。これは液晶の性質によるもので故障ではありません。**

目　次

1

裏ぶたを開けます。
[14ページ]

2

フィルムを入れ、裏ぶたを閉じます。
[15ページ]

3

自動的に1コマ目まで巻き上がります。[17ページ]

4

電源を入れます。
[19ページ]

5

ファインダーをのぞき、ズームレバーを左右に動かして写したい物の大きさを決めます。
[24ページ]

6

ピントを合わせたいものにファインダー内の[ ]を合わせます。[25ページ]

7

シャッターボタンを押して撮影です。暗い所では自動的にストロボが光ります。
[26、27ページ]

8

フィルムが終わると自動的に巻き戻しが始まります。
[30ページ]

こんな写真を撮るには？

ピント関係

ストロボ関係

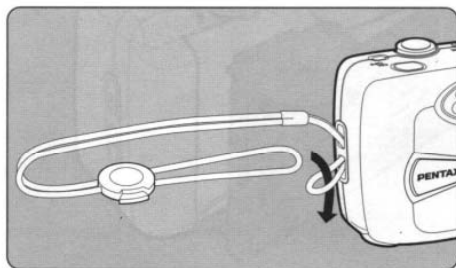
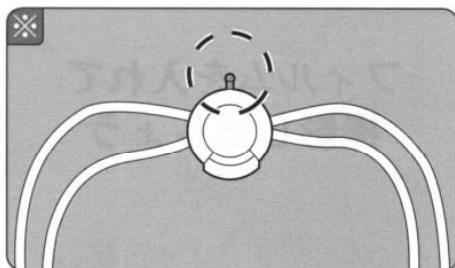
ズーミング関係

人物撮影関係

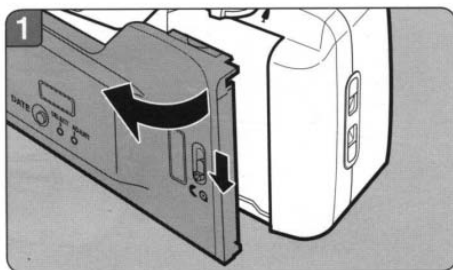
風景撮影関係

その他

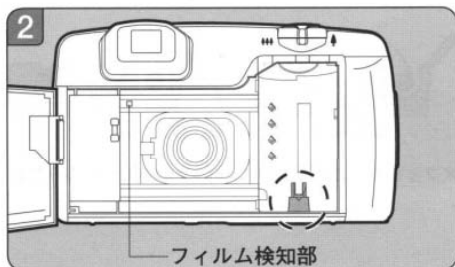
撮影前の準備をしましょう

カメラをケースに入れるときは、電源をOFFにしてください。[電源OFFについては、19ページをご覧ください。]

ストラップを図のように、カメラのストラップ通しに通します。

※ストラップ留め具の図の部分は、フィルムの途中巻き戻しや電池ぶたを開けるときに使用します。

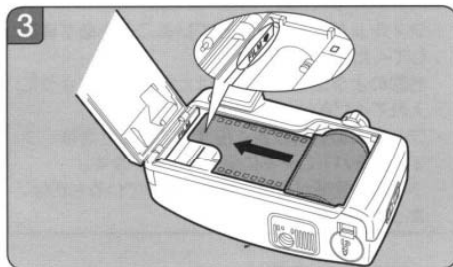
フィルムを入れて撮影しましょう

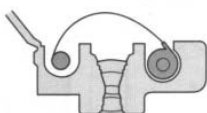
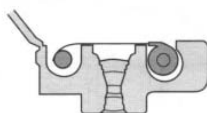
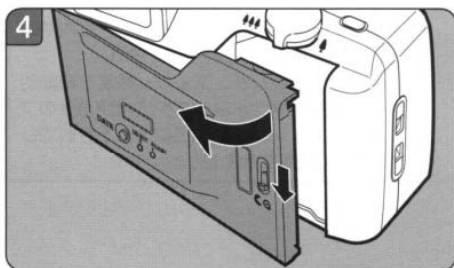
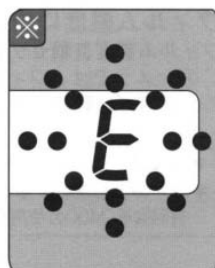
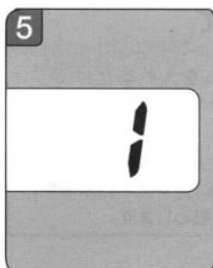
フィルムは、一通り説明書を読んでカメラの操作に慣れてから入れましょう。

1.図のように、裏ぶた開放レバーを下方向に押し下げ、裏ぶたを開けます。

＊スライド用のリバーサルフィルムを使うと、きれいな写真（適正露出）にならない場合があります。撮影には、ネガフィルムの使用をお勧めします。

・フィルムを入れるときは、直射日光が当たらない所で行ってください。

2.裏ぶたを開けると、図のように黒い突起があります。
フィルムは凸側を上にして、下側から先に黒い突起に差し込むように入れ、次に上側を押し入れます。

＊図のフィルム検知部にゴミなどが付着すると、フィルムが正しく巻き上げられません。

＊フィルムは、下側の穴を黒い突起部分にしっかりと差し込んでください。

3.フィルムを少し引き出して、図のようにフィルム先端マークに合わせます。

・フィルムがまっすぐ入っていることを必ず確認してください。
・右図のように、フィルムはたるみがないように入れてください。
・フィルムの先端が長く出すぎているときは、フィルムをパトローネに少し押し戻します。
・フィルム先端が極端に折れ曲がっているものは、まっすぐに直してください。

×フィルムのたるみあり

○フィルムのたるみなし

4. 裏ぶたを閉じるとフィルムが自動的に巻き上げられ、1枚目まで進みます。

5. 図のように、フィルム枚数表示のが出て自動的に止まります。必ず枚数表示が 1 になっていることを確認してください。

※フィルムが正しく入っていないと、表示パネルに E が点滅して知らせます。裏ブタを開け、フィルムを正しく入れ直してください。

＊フィルム枚数や E の表示は、電源をOFFにしても約5秒間表示されます。

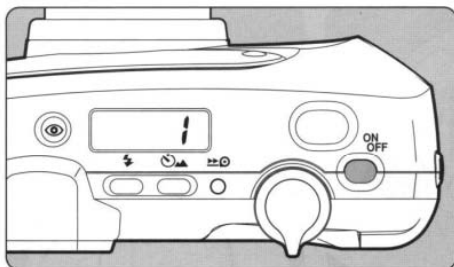
フィルム感度について

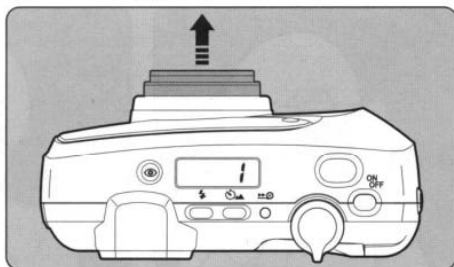
フィルム感度自動セット

このカメラでは、フィルムを入れるだけでフィルム感度が自動的にセットされます。

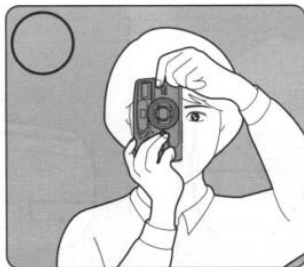
＊ISO25～3200 までのフィルムが使えます。
＊フィルム感度は、手ぶれ防止やストロボ撮影に有利なISO400の使用をお勧めします。

・ISO800以上の高感度DXフィルムは、室内や暗い所での撮影用としてご利用ください。
・ほとんどのフィルムが、フィルム感度を自動的にセットできるDXフィルムですが、DX以外のフィルムではフィルム感度が25にセットされてしまいますので使用できません。

電源を入れてみましょう

電源スイッチを押すと電源が入ります。[電源ON]
もう一度押すと電源が切れます。[電源OFF]

＊カメラを使用しないときは、必ず電源をOFFにしてください。
＊電源が入ったまま放置した場合は、放置後約3分間たつと、自動的に電源がOFFになります。

電源を入れるとレンズカバーが開き、レンズが少し前に出ます。

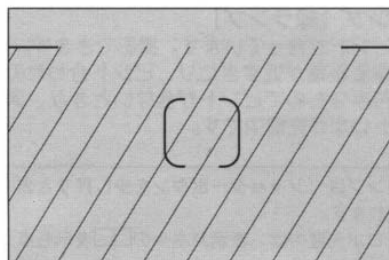
＊表示パネルに[電池]マークが出ているときは、電池が消耗していますので、電池を交換してください。51ページをご覧ください。
＊3Vリチウム電池［CR123A相当品］1本を使用します。電池を抜くと日付と時刻の修正が必要となりますので、電池消耗時以外は、電池を抜かないでください。

カメラの構え方

撮影するときは、カメラを両手でしっかり持ち、カメラが動かないようにして、シャッターボタンを静かに押しましょう。[強く押すとカメラが動いて、きれいな写真が撮れません。]

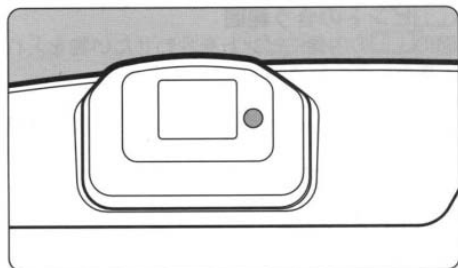
* ＊木や建物・テーブルなどを利用して、からだやカメラを安定させるのも良い方法です。
* ＊カメラを縦位置に構えてストロボ撮影するときは、ストロボが上になるようにしましょう。影が自然な方向に出ます。

・レンズはズーミングをしたり、シャッターボタンを押して撮影することにより動きますので、レンズ部分を持つと、落下などの原因になります。

・カメラ前面の測距窓・レンズ・受光窓・ストロボ発光部などを、髪や手でふさぐと、ピンボケ・露出不足・露出オーバーなどの原因になります。

ファインダー内表示

[ ]ピントの合う範囲
図の[ ]の内側にピントを合わせたい物を入れて撮影してください。

ファインダーをのぞくと、図のような表示が見えます。ファインダーを覗いたときに見えている範囲が写真に写ります。

1m以下での撮影
撮影距離が 1m 付近より手前の場合は、図の斜線部分が写真に写る範囲になります。写したい物をこの範囲内に入れて撮影してください。

ランプ表示

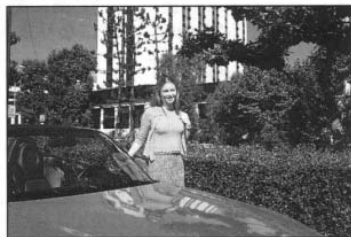
ファインダー接眼窓の右横には、図のようなランプ表示があります。

○ランプ［緑ランプ］

点灯：ピントが合っています。撮影できます。
点滅：撮影距離が近すぎたり、ピント合わせの苦手なものでピントが合ないときか、ストロボが充電中です。

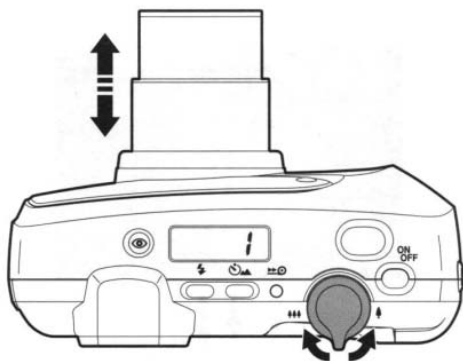
＊緑ランプは、シャッターボタンを少し押すと表示されます。
＊ストロボ充電中は、表示パネルの⚡表示も点滅します。

写したいものの大きさを変えます

38ミリ

80ミリ

55ミリ

65ミリ

ズーミングをしてみましょう [38~80mmの範囲でズーミングできます]

ズームレバーを[♠]側に動かすと、遠くのものを大きく写せる80mm側へ、[♠♠♠]側に動かすと広い範囲を写せる38mm広角側になります。

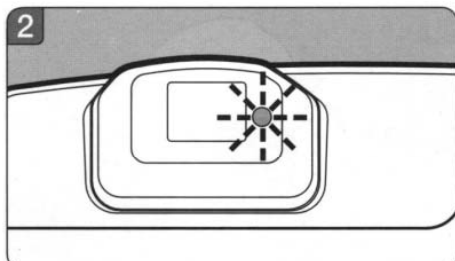
＊ファインダーを見ながら、写したいものが好みの大きさになったところで止めて撮影してください。

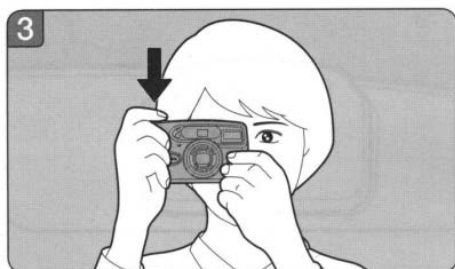
使用できる焦点距離は38/55/65/80ミリです

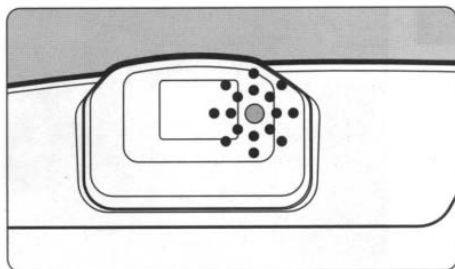
・ズームレンズには、無理な力を加えないでください。また、レンズを下向きに置かないでください。レンズに無理な力が加わります。

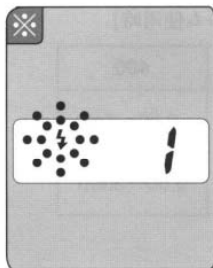
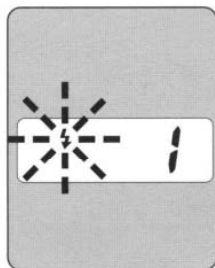
撮影しましょう

1. ファインダー内の[( )]をピントを合わせたい物に合わせます。

＊写したい物の大きさは、ズームレバーを動かして調節してください。24ページをご覧ください。
＊サービスサイズのカラープリントでは、画面周辺の物がプリントされないことがあります。構図に少し余裕を持たせてください。

2. シャッターボタンを少し押すと自動的にピントが合い、緑ランプが点灯します。

＊一度緑ランプが点灯してから別のものにピントを合わせ直すときは、シャッターボタンを押し直してください。

3.緑ランプの点灯後、そのままシャッターボタンを押して撮影します。

＊撮影できる距離は、0.8mより遠くです。

※緑ランプが点滅した場合
緑ランプの点滅は、撮影距離が近すぎたり、ピント合わせの苦手な物でピントが合ないときか、ストロボ充電中を知らせています。緑ランプの点滅中は、シャッターが切れません。29ページをご覧ください。

・カメラ前面の測距窓が汚れていると、正しいピント合わせが出来なくなりますのでご注意ください。

ストロボ自動発光
このカメラでは、写したいものが暗いときは、ストロボが自動的に発光します。
ストロボが発光する場合には、表示パネルに[⚡]が表示されます。

※ストロボが充電中の場合
ストロボの充電中は、ファインダー内の緑ランプ[○]と表示パネルの[⚡]表示が点滅します。
この場合シャッターは切れません。

＊このカメラには、セルフタイマーランプの点灯による赤目軽減機能が付いています。詳しくは44ページをご覧ください。
＊ストロボを連続して使うと、電池が多少温かくなることがありますが、異常ではありません。

ストロボ撮影ができる距離 ［ネガカラーフィルム使用時］

レンズ ＼ ISO	100	200	400
38mm（♠♠♠）	0.80〜3.5m	0.80〜5m	0.80〜7m
80mm（♠）	0.80〜1.8m	0.80〜2.5m	0.80〜3.6m

ISO100、200、400 以外のフィルムを使用したときのストロボ撮影距離範囲 ［ネガカラーフィルム使用時］

レンズ ＼ ISO	25	50	800	1600
38mm（♠♠♠）	0.80〜1.8m	0.80〜2.5m	0.80〜10m	(*) 1.1〜14m
80mm（♠）	ーーーー	0.80〜1.3m	0.80〜5m	0.80〜7.2m

(*)：高感度のため近距離では露出オーバーになることがあります。
ーーーー：適正露出が得られません。

ピントが合わない場合

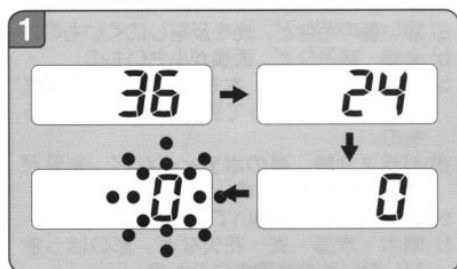
1.ピント合わせの苦手な物のとき

写したい物の条件が右記のような場合では、ピントがの合わないことがあります。この場合は、ピントを合わせたい物とほぼ等しい距離にあるものにピントを固定［フォーカスロック］をして撮影してください。フォーカスロックについては、45ページをご覧ください。

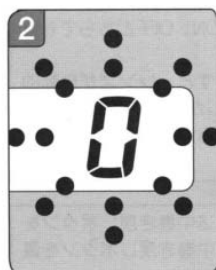
2.撮影距離が近すぎるとき

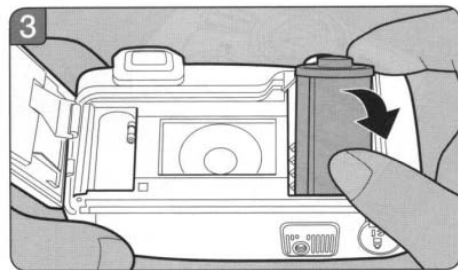
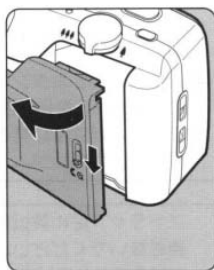
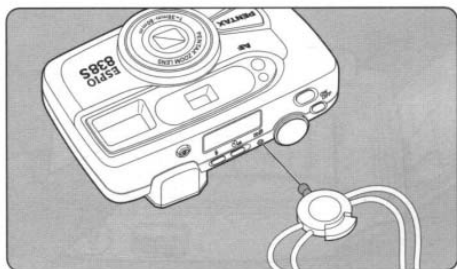
撮影距離が近すぎるとピントが合いません。ピントを合わせたい物から、もう少し離れて撮影してください。撮影できる距離は、0.8mより遠くです。

a) 黒い髪の毛など、光を反射しにくいもの。
b) 金網・格子など、面積が小さいもの。
c) ネオンや蛍光灯・木もれ日などの点滅光源や、それによって強く照明されているもの。
d) ガラスや鏡、車のボディーなど、光沢があって反射するもの。
e) 速いスピードで動いているもの。
f) 噴水・水面・炎・花火など、形のはっきりしないものや霧の中のもの。

* ピントが合わない場合は、ファインダー内の緑ランプが点滅して知らせます。緑ランプの点滅中は、シャッターが切れません。

1.フィルムを最後まで撮り終えると、自動的に巻き戻しが始まります。巻き戻しが終わるとモーターは止まり、図のように[0]が点滅して知らせます。

＊巻き戻しは、レンズが自動的に収納されてから行われます。
＊巻き戻し時間は24枚撮りで約20秒です。
＊巻き戻し中は、撮影枚数が逆算表示されます。
＊巻き戻し完了時、光もれを防ぐためフィルムは、すべて巻き込まれます。
＊フィルム枚数や[E]の表示は、電源をOFFにしても約5秒間表示されます。

・フィルムの規定枚数を超えた最後のコマは、現像処理でカットされることがあります。
・規定枚数になっても、まだ撮影が続けられるときは、フィルムの最後まで進んでから巻き戻しが行なわれます。

2.表示パネルの[0]の点滅を確認してから、図のように裏ぶたを開けます。

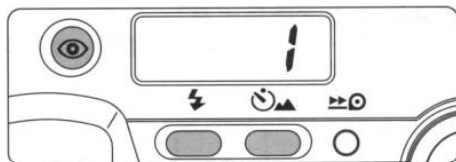
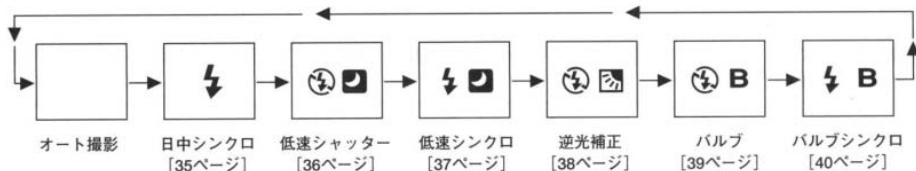
・巻き戻し中は、絶対に裏ぶたを開けないでください。せっかく撮影した写真が駄目になってしまいます。

3.フィルムを図のように上側から先に取り出します。

フィルムの途中巻き戻し

フィルムを規定枚数まで撮り終わらないうちに途中で取り出したいときにご利用ください。

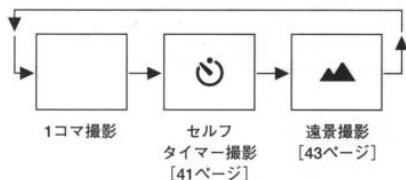
1. カメラ上面の途中巻き戻しボタン[▶▶⊙]をストラップの突起で押します。[巻き戻しが始まります]
2. 巻き戻しが終わると、モーターは止まり表示パネルの[0]が点滅して知らせます。
3. 表示パネルの[0]の点滅を確認してからフィルムを取り出してください。

＊途中巻き戻しは、電源がON、OFFどちらでも可能です。
＊途中巻き戻しボタンを押すと、レンズが自動的に収納されてから巻き戻しが始まります。
＊フィルムが完全に巻き取られるまで、裏ぶたを開けないでください。

・ストラップ留め具以外で途中巻き戻しボタンを押さないでください。途中巻き戻しボタンを傷付けることがあります。

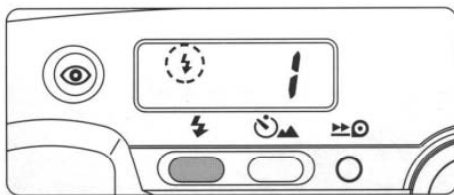
いろいろな撮影をしましょう

[⚡]ストロボ/バルブボタン
[⚡]ボタンを押すと、いろいろな「露出の方式」を選ぶことができます。

＊通常の撮影では、表示パネルに表示を出さない「オート撮影」に合わせてください。オート撮影は、暗いときにストロボが自動的に発光する最も一般的なモードです。電源を一旦OFFにすると「オート撮影」に戻ります。
＊表示パネルには、ストロボが発光する場合[⚡]が表示され、発光しない場合[⑤]が表示されます。ただし、オート撮影では[⑤]は表示されません。

セルフ／遠景ボタン

ボタンを押すと、1コマ撮影・セルフタイマー撮影・遠景撮影を選ぶことができます。

＊通常の撮影では、表示パネルに表示を出さない「1コマ撮影」に合わせてください。電源を一旦OFFにすると「1コマ撮影」に戻ります。

赤目軽減ボタン

ボタンを押すと、ストロボ撮影で目が赤くなるのを目立たなくする「赤目軽減機能」をセットすることが出来ます。44ページをご覧ください。

日中シンクロ撮影

昼間の明るいときでも、逆光や帽子などで人物の顔が暗くなってしまうときに、このモードを使うと常にストロボが発光しますので、影の取れたきれいな写真が撮れます。また、常時ストロボ撮影を行ないたいときにもご利用ください。

ストロボ／バルブボタンを押して、表示パネルに表示を出して撮影します。

・日中シンクロの場合にも、「ストロボ撮影できる距離の範囲内」で撮影してください。28ページをご覧ください。

ストロボなし

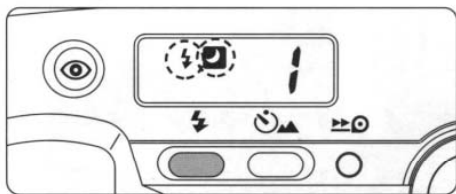
ストロボ使用　日中シンクロ

低速シャッター撮影

暗くてもストロボが使えない場所［劇場、美術館など］での撮影や夕景の撮影などにご利用ください。ストロボを発光させませんので、室内の照明を利用して雰囲気のあるソフトな写真を楽しめます。

ストロボ／バルブボタン を押して、表示パネルに 表示を出して撮影します。

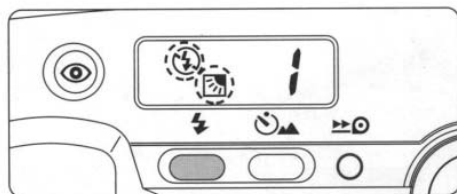
・低速シャッター撮影では、シャッター速度が遅くなります。手ぶれを防ぐため、カメラを三脚などに固定してください。また、写される人が動いても、写真はぶれてしまいますのでご注意ください。

低速シャッター撮影

低速シンクロ撮影

夕景などを背景に人物撮影をするときに使います。低速シンクロでは、人物にストロボ光を当て、背景は遅いシャッター速度で、どちらもバランス良く撮影できます。

ストロボ／バルブボタン を押して、表示パネルに 表示を出して撮影します。

低速シンクロ撮影

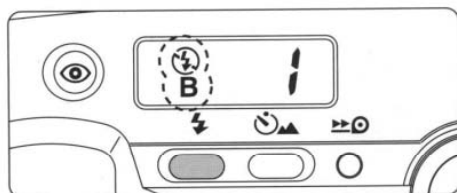
・低速シンクロ撮影では、シャッター速度が遅くなります。手ぶれを防ぐため、カメラを三脚などに固定してください。また、写される人が動いても、写真はぶれてしまいますのでご注意ください。
・低速シンクロの場合にも、「ストロボ撮影できる距離の範囲内」で撮影してください。28ページをご覧ください。

逆光補正

逆光で人物の顔が影になっているが、ストロボを発光させたくない場合やストロボの光がとどかない場合に使います。

ストロボ／バルブボタン[⚡]を押して、表示パネルに[逆光補正]表示を出して撮影します。

＊薄暗い場所で逆光補正を使うと、シャッター速度が遅くなりますので、三脚などをご利用ください。

逆光補正なし

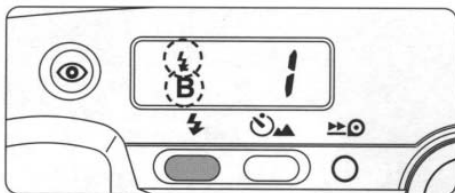
逆光補正

B バルブ撮影

花火や夜景の撮影など、シャッターを長時間開き続けて撮影をする場合にご利用ください。

ストロボ／バルブボタン[⚡]を押して、表示パネルに[B]表示を出して撮影します。

＊バルブ撮影では、シャッターボタンを押している間、シャッターが開き続けます。[最長約1分]

バルブ撮影
ISO400で約3秒の撮影

・バルブ撮影では、カメラぶれを防ぐために三脚などをご使用ください。

⚡B バルブシンクロ撮影

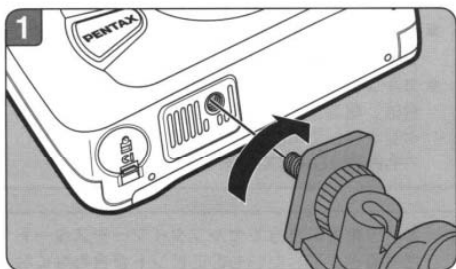
夜景などを背景にした人物撮影に使います。バルブシンクロでは、人物にストロボ光を当て、背景は長時間のシャッター速度で、どちらもバランス良く撮影できます。

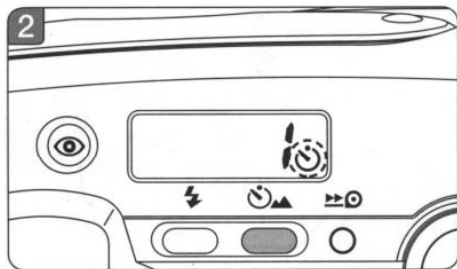
ストロボ/バルブボタンを押して、表示パネルに⚡B表示を出して撮影します。

＊バルブシンクロでは、シャッターボタンを押している間、シャッターが開き続けます。[最長約1分]

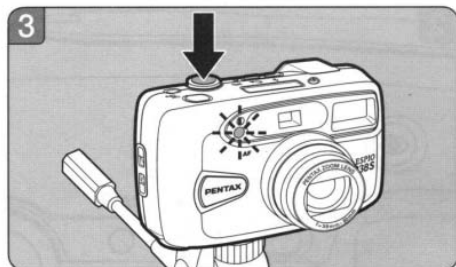
・バルブシンクロの場合にも、「ストロボ撮影できる距離の範囲内」で撮影してください。28ページをご覧ください。

・バルブシンクロ撮影では、カメラぶれを防ぐために三脚などをご使用ください。

セルフタイマー撮影

撮影者も入って記念撮影をするときなどにご利用ください。

1. 三脚にカメラを取り付けて固定します。

2. セルフ/遠景ボタンを押して、表示パネルにの表示を出します。

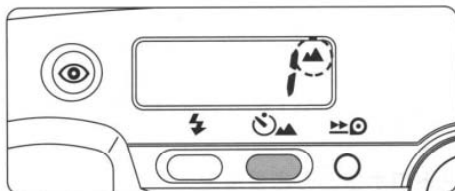
＊セルフタイマーで撮影するときは、三脚などを使用してください。

＊電源をOFFにすると「1コマ撮影」に戻ります。

3. 写したいものにピントを合わせてから、さらにシャッターボタンを押すと、セルフタイマーがスタートします。

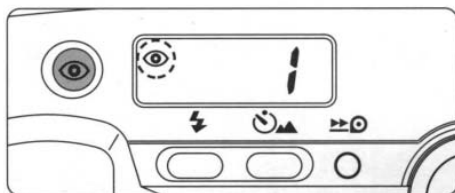
＊セルフタイマーの作動中は、表示パネルの⏱の点滅とセルフタイマーランプの点灯で知らせます。シャッターが切れる約3秒前からセルフタイマーランプは点滅に変わります。

＊セルフタイマーを作動させてから、約10秒後にシャッターが切れます。
＊セルフタイマーを作動させた後に中止したい場合は、電源スイッチを押すか、セルフ／遠景ボタンを押してください。電源スイッチで中止しても電源はOFFになりません。

・カメラ前面に立ってセルフタイマーをスタートさせると、写したいものにピントが合わなくなることがありますのでご注意ください。
・ストロボが充電中［緑ランプ⚡点滅］のときは、ストロボの充電完了後［緑ランプ⚡点灯］にセルフタイマーを作動させてください。

遠景撮影

金網やガラス越しの遠くの風景などを撮影するときにご利用ください。誤って金網やガラスにピントが合ってしまうのを防げます。

セルフ／遠景ボタン⏱▲を押して、表示パネルに▲の表示を出し撮影します。

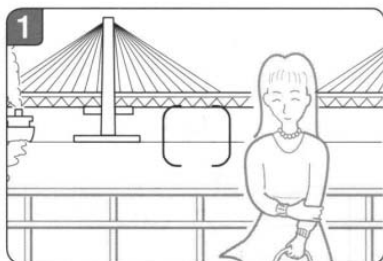
＊一度撮影をすると遠景撮影は解除されます。
＊露出方式が「オート撮影」では、暗くてもストロボは発光しません。

◉ 赤目軽減機能

ストロボ撮影で人物の目が赤く写るのを目立たなくすることができます。撮影前にセルフタイマーを約1秒間点灯させ、人物の瞳を小さくしてからストロボ撮影を行うことで、目が赤く写るのを目立たなくします。

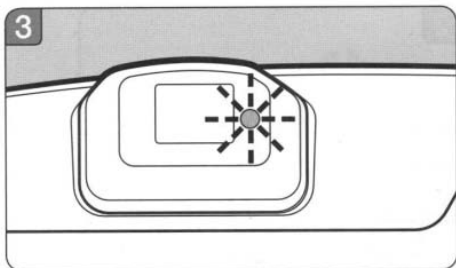
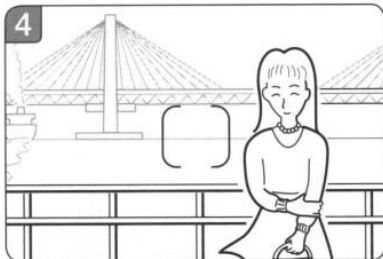
赤目軽減ボタン[◉]を押して、表示パネルに[◉]を表示させます。

＊露出方式が [ⓢ◘] [ⓢ▧] [ⓢB] のときは赤目軽減ボタンを押しても[◉]は表示されません。
＊赤目軽減機能を解除するときは、もう1度赤目軽減ボタンを押して表示パネル内の[◉]表示を消します。

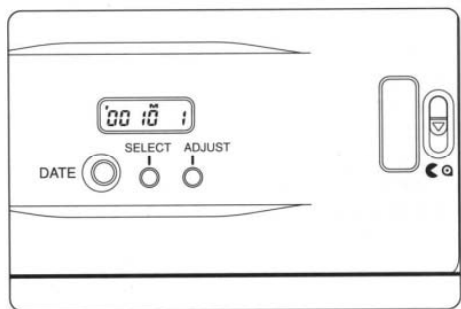
ストロボ撮影の赤目現象
ストロボ撮影で人物の目が赤く写ることがあります。これは、目の網膜にストロボの光が反射して発生する現象です。人物の周りを明るくしたり、撮影距離を近くにしてレンズを広角側で撮影すると、発生しにくくなります。

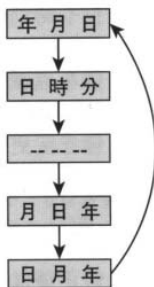
フォーカスロック撮影

1. ファインダー内の[ ]が人物から外れたままで撮影すると、図のように後ろにピントが合ってしまいます。

2. ピントを合わせたいものに[ ]を合わせます。

※このとき、露出も同時に固定されます。

3. シャッターボタンを少し押し、ピントを合わせ、緑ランプを点灯させたままにします。

4. そのままシャッターボタンから指を離さずに、写したい構図に戻してシャッターをきります。

・緑ランプ点灯中は、ピントが固定されます。[フォーカスロック]
・シャッターボタンから指を離すと、フォーカスロックは解除されます。

写真に日付や時刻を写し込みます

このカメラは、2049年までのオートカレンダー機能を持っています。日付や時刻の表示は、ほぼ正しくセットしてあります。

写し込みたい内容を選びます。DATEボタンを押すと図のように表示が変わりますので、希望の表示を選んでください。

＊デート表示窓に表示されている日付や時刻が写真に写し込まれます。
＊日付や時刻を写し込みたくない場合は、デート表示窓に-- -- --を表示させます。
＊デート表示窓に表示されている「M」は、「月」の位置を示しています。

日付や時刻の修正

1. SELECTボタンを押して、修正したい数値を点滅させます。
2. ADJUSTボタンを押して、点滅させた数値を変更します。

＊数値は、ボタンを1回押すごとに1つ進み、押し続けると約1～2秒後からは早送りされます。

3. 修正後は、SELECTボタンを押して、点滅を止めます。

＊SELECTおよびADJUSTボタンを押すときは、ストラップの留め具の突起を使用してください。
＊修正中［点滅表示中］は、シャッターを切っても日付や時刻は写し込まれません。
＊「年月日」表示の「年」は、2000年では「00」、2001年では「01」のように下2ケタのみが表示されます。
＊電池交換を行うと、日付が「98.1.1」、時刻が「0時0分」に変わります。電池を交換したときは、必ず日付と時刻の修正を行ってください。

＊「年月日」と「日時分」を同時に写し込むことはできません。
＊0秒にセットするときには、「日時分」表示のときにSELECTボタンを何度か押し「：」を点滅させて、ADJUSTボタンを時報などに合わせて押してください。
＊シャッターを切るとデート表示窓の[ー]が点滅して、日付や時刻が写し込まれたことを知らせます。

・日付や時刻が写る部分に白・黄色などの明るい物があると、日付や時刻が見えにくくなります。日付や時刻が写る部分には明るいものがこないようにしましょう。
・規定枚数を超えたコマでは、日付や時刻が正しく写し込まれない場合があります。

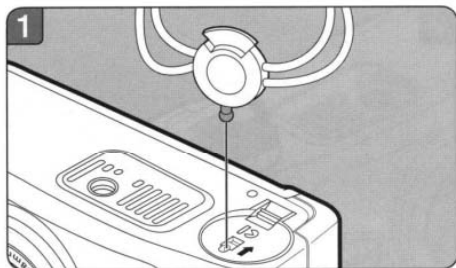
この写真の数字はハメコミ合成です。

電池の消耗警告

電池が消耗してくると表示パネルに図のマークが出て警告します。早めに新しい電池と交換してください。が点滅に変わると、シャッターが切れなくなります。

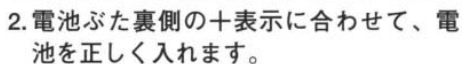
撮影できるフィルム本数［24枚撮り］
通常の撮影モードでストロボの使用率を50%にした場合　約15本
［CR123A電池・当社試験条件による］

＊低温では、一時的に電池の性能が低下することがありますが、常温に戻れば使用できます。また、撮影できるフィルム本数が少なくなります。

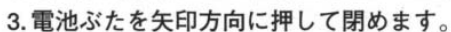
電池の交換［電源をOFFにします］

1. ストラップ留め具の突起を利用して、電池ぶたのロックを図の矢印方向へ引いて電池ぶたを開けます。

＊フィルムの途中で電池交換しても、そのままフィルム枚数は記憶されています。ただし、日付や時刻は初期状態に戻ってしまいますので、再度日付や時刻の修正を行ってください。修正方法は、48 ページをご覧ください。

2. 電池ぶた裏側の十表示に合わせて、電池を正しく入れます。

使用電池……3Vリチウム電池 CR123A相当品（1本）

＊海外旅行・寒冷地での撮影や写真をたくさん撮るときには、予備電池をご用意ください。

3. 電池ぶたを矢印方向に押して閉めます。

＊電池ぶたが正しくロックされると、「カチッ」と音がします。

・電池を交換しても正しく作動しないときは、電池の向きを確認してください。

MEMO

修理を依頼される前にもう一度、次の点をお調べください。

症状	原因・対処
症状1：シャッターが切れない。	原因・対処1： ・電源がOFFになっていませんか。電源を入れてください。［19ページ］ ・電池は入っていますか。電池が消耗していませんか。［50ページ］ ・表示窓に［0］が点滅している場合は、フィルムが終了しています。新しいフィルムと交換してください。［30ページ］ ・表示窓に［E］が点滅している場合は、フィルムが正しく入っていません。正しく入れ直してください。［17ページ］
症状2：写真の出来が良くない。	原因・対処2： ・ピントを合わせたいものにファインダー内の［（ ）］を正しく合わせて撮影してください。［25ページ］ ・指や髪などで測距窓を覆わないようにして、シャッターボタンは静かに押してください。［20ページ］ ・測距窓が汚れていませんか。［20ページ］
症状3：ズームレンズが勝手に収納され、電源OFFになった。	原因・対処3： ・電源ONのまま放置した場合は、放置後約3分間たつと、自動的に電源OFFになります。［19ページ］

症状	原因・対処
症状4：暗くないのにストロボが発光する。	原因・対処4： ・表示パネルに［ϟ］が表示されていませんか。［35、37、40ページ］
症状5：表示パネルに［--］表示が点滅する。	原因・対処5： ・ズームレバーなどを動かしてみてください。表示が消えればそのままご使用になれますが、度々出る場合には故障の可能性があります。

CE	このマーク（CE）は、安全性・環境および消費者保護に関するEU（欧州連合）の要求事項に適合していることを示すものです。CEとは、フランス語のComunité Européen（欧州共同体）の略語です。

アフターサービスについて

・旭光学のサービス窓口では、ペンタックスカメラをはじめ、各種交換レンズやアクセサリーが展示され、お手にとってご覧になれます。また、種々のご相談にも応じておりますので、お気軽にお立ち寄りください。

1. 本製品が万一故障した場合は、ご購入日から満1年間無料修理致しますので、お買い上げ店か使用説明書に記載されている最寄りの当社サービス窓口にお申し出ください。修理をお急ぎの場合は、当社のサービス窓口に直接お持ちください。修理品ご送付の場合は、化粧箱などを利用して、輸送中の衝撃に耐えるようしっかりと梱包してお送りください。不良見本のフィルムやプリント、また故障内容の正確なメモを添付していただけると原因分析に役立ちます。
2. 保証期間中［ご購入後1年間］は、保証書［販売店印および購入年月日が記入されているもの］をご提示ください。保証書がないと保証期間中でも修理が有料になります。なお、販売店または当社サービス窓口へお届けいただく諸費用はお客様にご負担願います。また、販売店と当社間の運賃諸掛りにつきましても、輸送方法によっては一部ご負担いただく場合があります。
3. 次の場合は、保証期間中でも無料修理の対象にはなりません。
   - ・使用上の誤り（使用説明書記載以外の誤操作等）により生じた故障。
   - ・当社の指定する修理取扱い所以外で行われた修理・改造・分解による故障。
   - ・火災・天災・地変等による故障。
   - ・保管上の不備（高温多湿の場所、防虫剤の入った場所での保管等）や手入れの不備（泥・砂・ホコリ・水かぶり・ショック等）による故障。
   - ・保証書の添付のない場合。
   - ・販売店名や購入日等の記載がない場合ならびに記載事項を訂正された場合。
4. 保証期間以後の修理は有料修理とさせていただきます。なお、その際の運賃諸掛りにつきましてもお客様のご負担とさせていただきます。
5. 本製品の補修用性能部品は、製造打ち切り後7年間を目安に保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受け致します。なお、期間以後であっても修理可能の場合もありますので、当社サービス窓口にお問い合わせください。
6. 海外旅行をされる場合国際保証書をお持ちください。国際保証書は、当社サービス窓口でお持ちの保証書と交換に発行しております。［保証期間中のみ有効］国際保証書の書面に記載されている海外のサービス窓口にて修理を承ります。

主な仕様

形式……………………ズームレンズ内蔵フルオート35mmレンズシャッターカメラ［デート付き］
使用フィルム…………35mmDXフィルム専用［135パトローネ入り］ISO25～3200自動感度セット［1EVステップ］DX以外＝ISO25固定
画面サイズ……………24×36mm
フィルム入れ…………オートローディング、裏ぶた閉じにより1枚目まで自動巻き上げ
巻き上げ………………自動巻き上げ式
巻き戻し………………フィルム終了時自動巻き戻し式［巻き戻し時間：24枚撮りフィルムで約20秒］巻き戻し終了時自動停止、途中巻き戻し可能
撮影枚数………………自動復元順算式、巻き戻しに連動［減算］
外部表示………………表示パネルに液晶表示
レンズ…………………38～80mmF4.8～9.5　5群5枚　画角59°～30.5°
ピント合わせ…………赤外線アクティブAF方式、フォーカスロック付き、撮影距離＝0.8m～∞［ズーム全域］、最大倍率約0.11×、遠景撮影あり［ピントは無限遠に固定］
ズーミング……………電動式ズームレンズ　38、55、65、80mmの4ステップズーム
シャッター……………プログラムAE電子式シャッター＝約1/300～1秒、バルブ［1/2秒～1分］、電磁レリーズ式
セルフタイマー………電子式ランプ表示、作動時間約10秒、作動後の解除可能
ファインダー…………実像式ズームファインダー、視野率83％、倍率0.42×［38mm側］0.78×［80mm側］、オートフォーカスフレーム、視野枠、近距離視野補正枠、緑ランプ［○］点灯：撮影可能　点滅：測距不能・近距離警告、ストロボ充電中

露出……………………プログラム式自動露出
露出連動範囲［ISO400］　オート、日中シンクロ時＝EV10～EV17［38mm側］EV13～EV19［80mm側］　低速シャッター撮影時＝EV8～17［38mm側］EV8～19［80mm側］
逆光補正…………………＋1.5EV
露出計スイッチ………シャッターボタン
ストロボ…………………オートストロボ内蔵［赤目軽減機能付き］、オート＝低輝度時自動発光、ストロボON＝日中シンクロ／低速シンクロ［1／3秒まで使用可能］バルブシンクロ＝1／2秒～1分
ストロボ撮影範囲……［ISO400使用時］38mm側＝0.8～7.0m、80mm側＝0.8～3.6m
ストロボ充電時間……約7秒［当社試験条件による］
電源……………………3Vリチウム電池［CR123A相当品］1本使用
撮影可能本数…………24枚撮りフィルム使用時約15本［ストロボ50％使用、当社試験条件による］
電池消耗警告…………表示パネルにが点灯、点滅時シャッターロック
デート機構……………クォーツ制御・液晶表示式デジタル時計、オートカレンダー［西暦2049年まで、閏年は自動修正］
データ写し込み方法…フィルム背面からの写し込み
データの種類…………❶年・月・日❷日・時・分❸-- -- --［データ写し込み無し］❹月・日・年❺日・月・年
大きさ・質量[重さ]…120.5［幅］×70.5［高さ］×53.0［厚み］mm　235g［電池別］
付属品……………………ストラップEJ、ソフトケースES

クイックガイド（このページは、切り取ってソフトケースなどに入れてお使いください。）
こんな写真を撮りたいと思ったときに、表示パネルに下の表示を出すだけで簡単に撮影ができます。

ボタン

オート
最も一般的なモードです。暗い所での撮影では、自動的にストロボが発光します。

日中シンクロ
明るくても暗くても常にストロボが発光します。逆光で影になっている人物を撮影するときなどに使います。

低速シャッター
暗くてもストロボを発光させません。ストロボが使えない美術館や室内の照明を利用した撮影をしたいときに使います。

低速シンクロ
夕景をバックにした人物撮影などで、人物にストロボを当てることで、夕景と人物をバランスよく撮影できます。

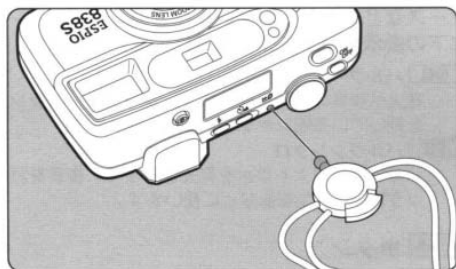
逆光補正
逆光の人物撮影で、ストロボを発光させたくない場合やストロボ光が届かない場合に使います。

バルブ
花火や夜景の撮影に使います。シャッターボタンを押している間シャッターが開き続けます。

バルブシンクロ
バルブ撮影でストロボを発光させます。夜景をバックにした人物撮影などに使います。

ボタン

セルフタイマー
自分自身も写真に写りたいときに使います。10秒後にシャッターが切れます。

遠景撮影
遠い風景やガラス越しの遠景などを撮影するときに使います。

フィルムの途中巻き戻し

1. カメラ上面の途中巻き戻しボタン[▶▶⊙]をストラップの突起で押します。[巻き戻しが始まります]
2. 巻き戻しが終わると、モーターは止まり表示パネルの[0]が点滅して知らせます。
3. 表示パネルの[0]の点滅を確認してからフィルムを取り出してください。

* 途中巻き戻しは、電源がON、OFFどちらでも可能です。

日付や時刻の修正

1. [SELECT]ボタンを押して、修正したい数値を点滅させます。
2. [ADJUST]ボタンを押して、点滅させた数値を変更します。
3. 修正後は、[SELECT]ボタンを押して、点滅を止めます。

・日付の修正を行ったときは、必ず時刻の修正も行ってください。

* [SELECT]および[ADJUST]ボタンを押すときは、ストラップの留め具の突起を使用してください。
* 修正中［点滅表示中］は、シャッターを切っても日付や時刻は写し込まれません。
*「年月日」表示の「年」は、2000年では「00」、2001年では「01」のように下2ケタのみが表示されます。
* 0秒にセットするときには、「日時分」表示のときに[SELECT]ボタンを何度か押し「：」を点滅させて、[ADJUST]ボタンを時報などに合わせて押してください。

MEMO

ペンタックスファミリーのご案内

ペンタックスファミリーは、ペンタックス愛用者の写真クラブです。年4回の会報と写真年鑑の配布、イベントへの参加や修理料金の会員割引など様々な特典があります。
お申し込み・お問い合わせは下記ペンタックスファミリー事務局まで。

〒100−0014　東京都千代田区永田町1−11−1
三宅坂ビル3階　☎03（3580）0336

旭光学工業株式会社
〒174−8639 東京都板橋区前野町2−36−9
ペンタックス販売株式会社
〒100−0014 東京都千代田区永田町1−11−1

☆この説明書には再生紙を使用しています。
☆仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

56489

01−200010